

## 平成22年横浜港の港勢

### 入港船舶

		単位	22年	前年比	構成比	21年	前年比	構成比
総数	隻数	隻	37,359	100.7	100.0	37,104	85.9	100.0
	総トン数	総トン	279,870,658	108.5	100.0	257,843,397	92.4	100.0
外航船	隻数	隻	10,771	104.4	28.8	10,316	91.2	27.8
	総トン数	総トン	240,627,401	109.9	86.0	219,014,536	92.4	84.9
うち フルコンテナ船	隻数	隻	5,405	104.8	50.2	5,159	94.3	50.0
	総トン数	総トン	138,840,495	106.7	57.7	130,142,034	98.5	59.4
内航船	隻数	隻	26,588	99.3	71.2	26,788	84.0	72.2
	総トン数	総トン	39,243,257	101.1	14.0	38,828,861	92.5	15.1

### 海上出入貨物

		単位	22年	前年比	構成比	21年	前年比	構成比
総数	貨物量	トン	129,693,278	112.3	100.0	115,528,762	81.5	100.0
	うちコンテナ貨物量	トン	52,131,871	117.9	40.2	44,233,853	84.3	38.3
	コンテナ個数	TEU	3,281,051	117.3	100.0	2,797,994	80.4	100.0
外貨	計	トン	87,212,482	116.2	67.2	75,039,900	81.9	65.0
	輸出	トン	41,921,501	121.3	32.3	34,549,141	73.7	29.9
	輸入	トン	45,290,981	111.9	34.9	40,490,759	90.4	35.0
うち コンテナ貨物	計	トン	49,290,102	117.9	56.5	41,812,298	83.6	55.7
	輸出	トン	25,540,546	121.4	60.9	21,045,701	81.4	60.9
	輸入	トン	23,749,556	114.4	52.4	20,766,597	86.0	51.3
コンテナ個数	計	TEU	2,989,555	117.0	91.1	2,555,237	79.8	91.3
	輸出	TEU	1,603,024	116.2	48.9	1,379,287	81.6	49.3
	輸入	TEU	1,386,531	117.9	42.3	1,175,950	77.6	42.0
内貨	計	トン	42,480,796	104.9	32.8	40,488,862	80.8	35.0
	移出	トン	17,948,583	107.3	13.8	16,723,565	78.9	14.5
	移入	トン	24,532,213	103.2	18.9	23,765,297	82.2	20.6
うち コンテナ貨物	計	トン	2,841,769	117.4	6.7	2,421,555	99.3	6.0
	移出	トン	1,439,681	113.9	8.0	1,264,444	89.2	7.6
	移入	トン	1,402,088	121.2	5.7	1,157,111	113.5	4.9
コンテナ個数	計	TEU	291,496	120.1	8.9	242,757	87.4	8.7
	移出	TEU	114,957	109.6	3.5	104,841	83.3	3.7
	移入	TEU	176,539	128.0	5.4	137,916	90.9	4.9

(注) コンテナ個数は、実入・空の合計。

「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貨又は内貨の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

### 貿易額

		単位	22年	前年比	構成比	21年	前年比	構成比
合計		百万円	10,335,966	125.3	100.0	8,251,847	63.5	100.0
輸出		百万円	7,102,629	129.0	68.7	5,507,985	63.3	66.7
輸入		百万円	3,233,337	117.8	31.3	2,743,862	63.8	33.3

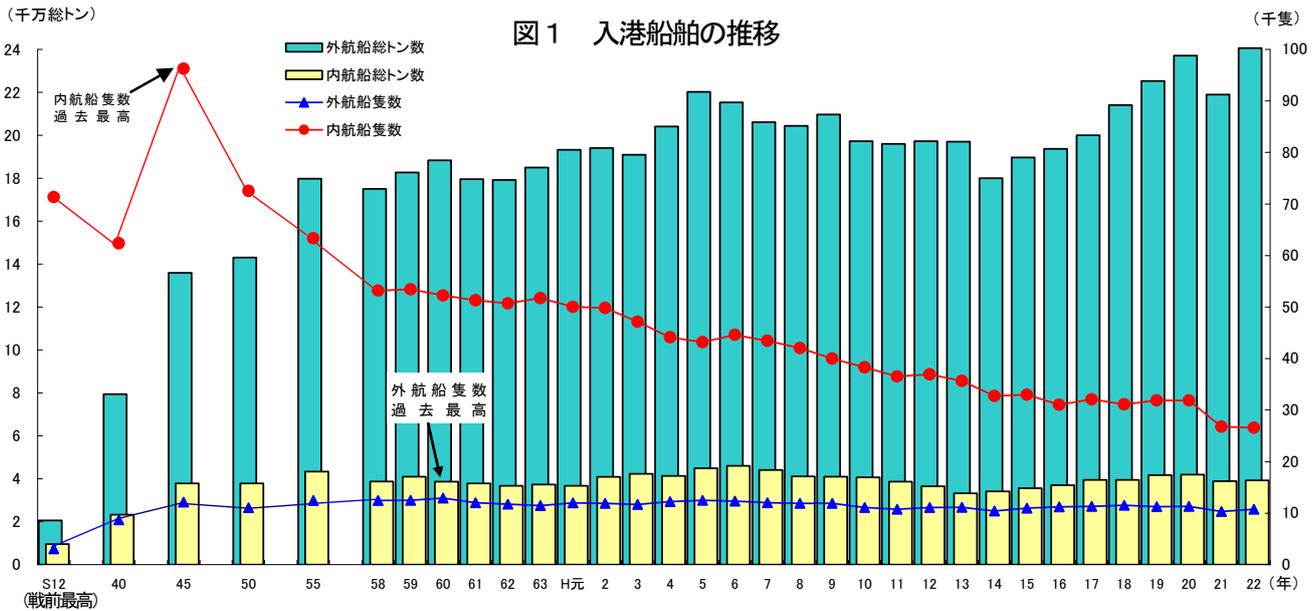
(注) 横浜税関資料による。(確定値)

平成22年の横浜港の取扱貨物は、前年比で戦後最大の下げ幅となった平成21年の落ちこみから回復し、1億2,969万トン(前年比12.3%増)となりました。特に、輸出において中核をなす自動車関連品が、前年比で3~4割の大幅増となり、貨物量全体の回復の原動力となりました。

また、入港船舶の隻数、総トン数は対前年比増で、総トン数は過去最高に、コンテナ取扱個数は平成20年、19年に続く、過去3番目となる328万TEU(17.3%増)となりました。

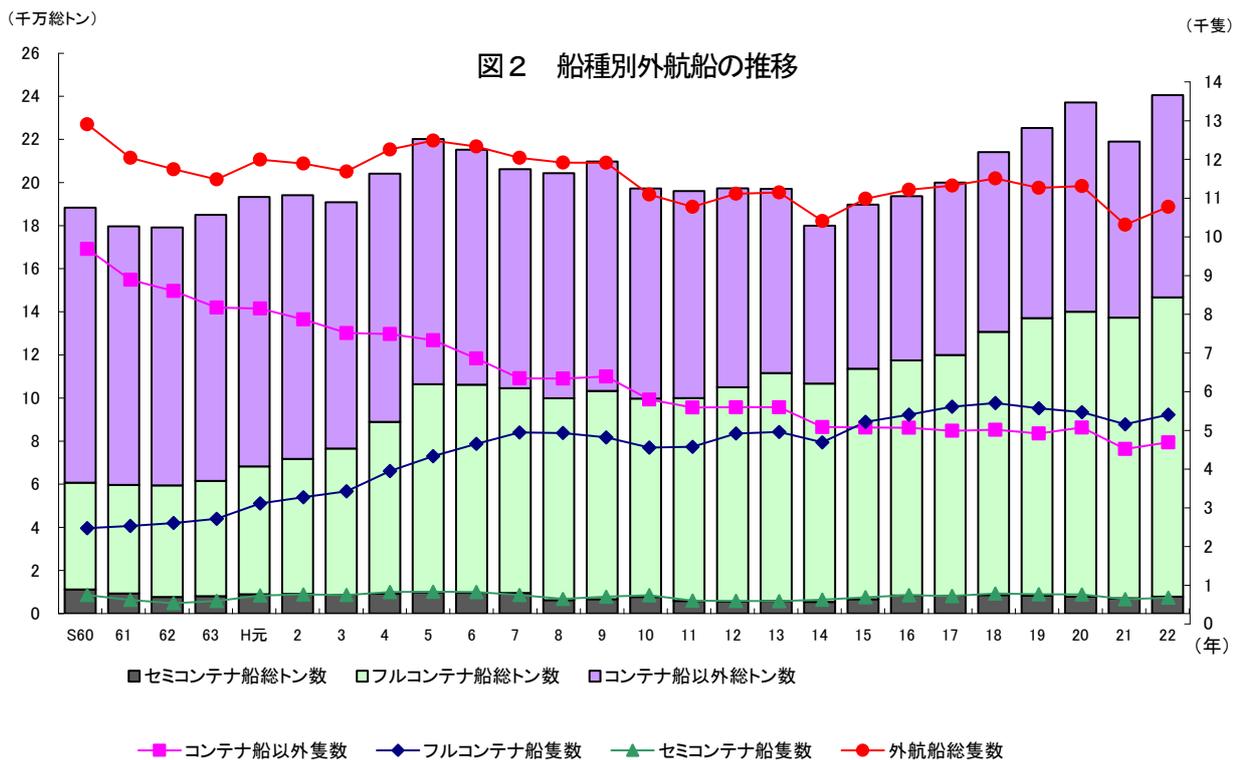
## 1 入港船舶 【P9】

入港隻数は外航・内航合計で3万7,359隻(前年比0.7%増、以下増減%は前年比)となりました。総トン数は2億7,987万総トン(8.5%増)となり、いずれも2年ぶりに増加に転じました。



外航船の入港隻数は1万771隻(4.4%増)、総トン数は2億4,063万総トン(9.9%増)となりました。このうちフルコンテナ船は5,405隻(4.8%増)、総トン数は1億3,884万総トン(6.7%増)となっています。

内航船の入港隻数は2万6,588隻(0.7%減)、総トン数では3,924万総トン(1.1%増)となりました。

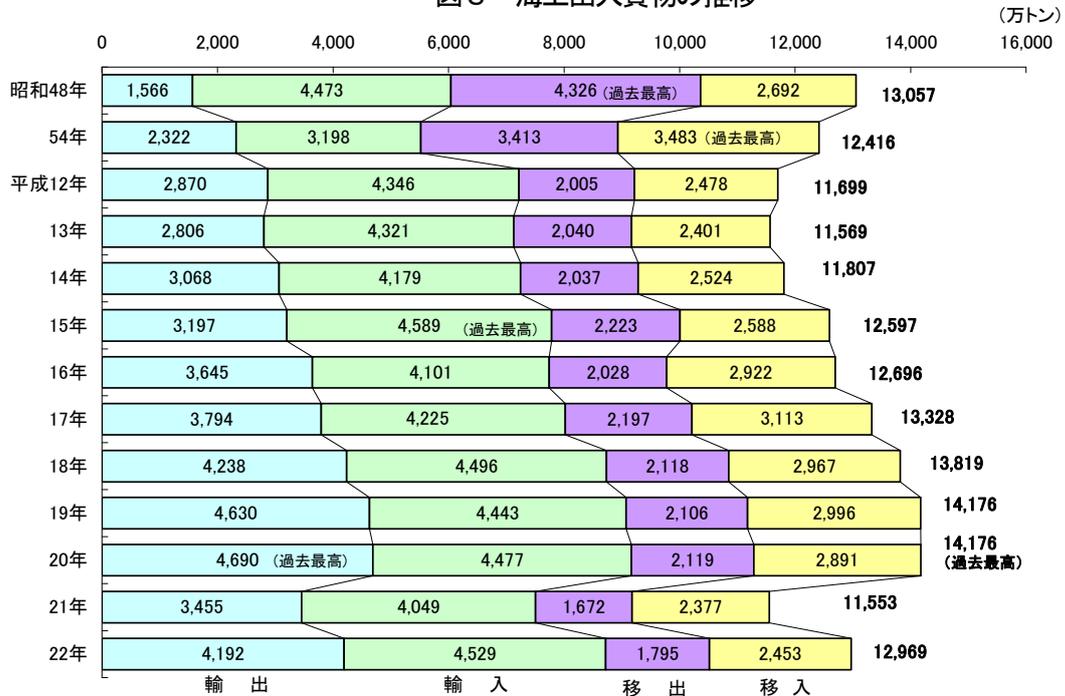


## 2 海上出入貨物

(1) 総貨物量 … 2年ぶりに増加、大幅に回復するも1億3,000万トンには届かず 【P14、15】

外貨貨物量は8,721万トン(16.2%増)、内貨貨物量は4,248万トン(4.9%増)、総貨物量は1億2,969万トン(12.3%増)となり、2年ぶりに増加に転じ、大幅な回復傾向がみられましたが、1億3,000万トンにはわずかに届きませんでした。

図3 海上出入貨物の推移



(2) 輸出貨物 … 前年比21.3%増、自動車関連品の回復が顕著に 【P14~16】

輸出貨物量第1位の「完成自動車」(1,217万トン、28.9%増、構成比29.0%)、第2位の「自動車部品」(671万トン、37.1%増、構成比16.0%)、第3位の「産業機械」(383万トン、19.9%増、構成比9.1%)など、上位品種は軒並み増加に転じ、特に第2位の自動車部品は平成20年の貨物量を超え、過去最高となりました。輸出貨物量合計では4,192万トン(21.3%増)となり、2年ぶりに増加となりました。

国別にみると、第1位の中国(1,027万トン、15.2%増、構成比24.5%)が、輸出貨物量合計の4分の1を占めています。

図4 主要品種別輸出貨物

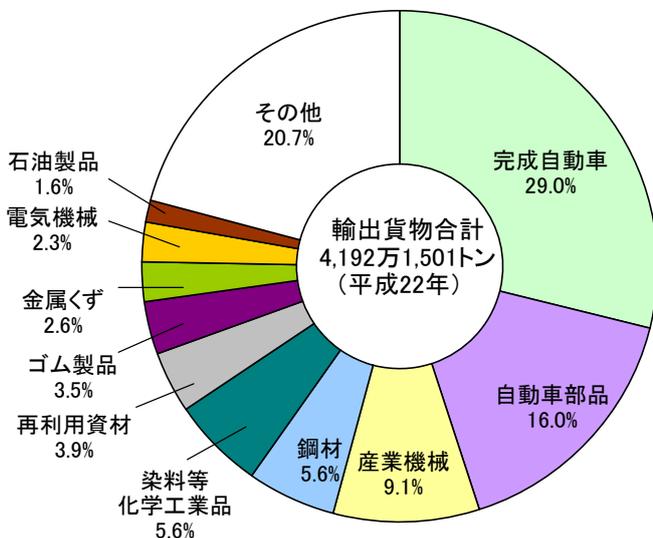
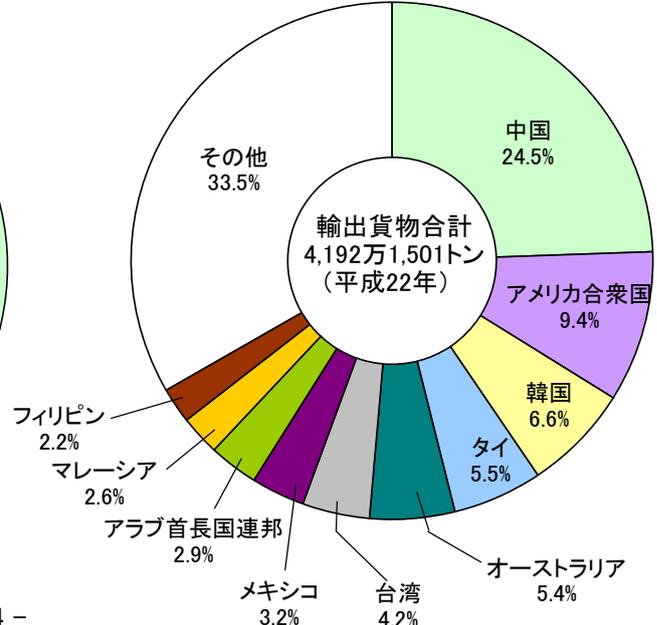


図5 主要国別輸出貨物



(3) 輸入貨物 … 前年比 11.9%増、過去3番目の貨物量 【P14～16】

輸入貨物量を品種別にみると、第1位が「LNG（液化天然ガス）」で718万トン（12.7%増、構成比15.9%）、第2位が「原油」で658万トン（3.9%減、構成比14.5%）、第3位が「衣服・身廻品・はきもの」で167万トン（1.3%減、構成比3.7%）、輸入貨物量合計では4,529万トン（11.9%増）となっており、輸入貨物量全体では平成18年の貨物量を上回り、過去3番目の貨物量となりました。

国別にみると、第1位が中国で893万トン（17.6%増、構成比19.7%）、第2位がアメリカ合衆国で566万トン（13.6%増、構成比12.5%）、第3位がサウジアラビアで522万トン（0.9%減、構成比11.5%）となりました。

図6 主要品種別輸入貨物

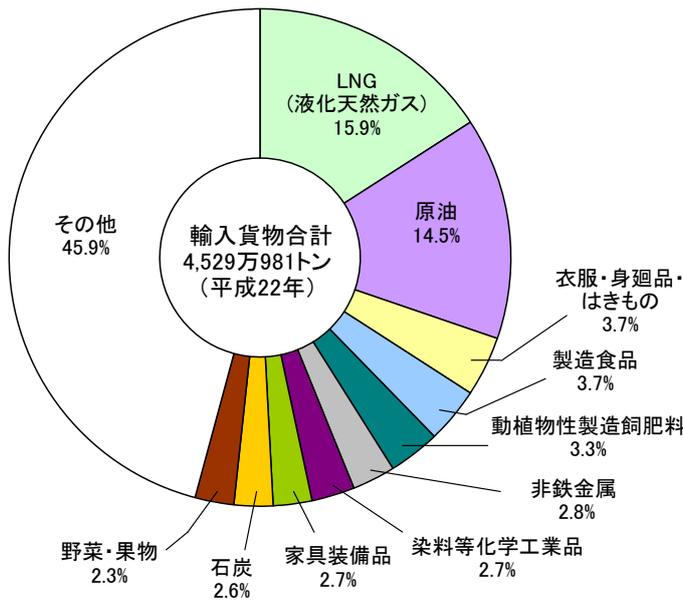
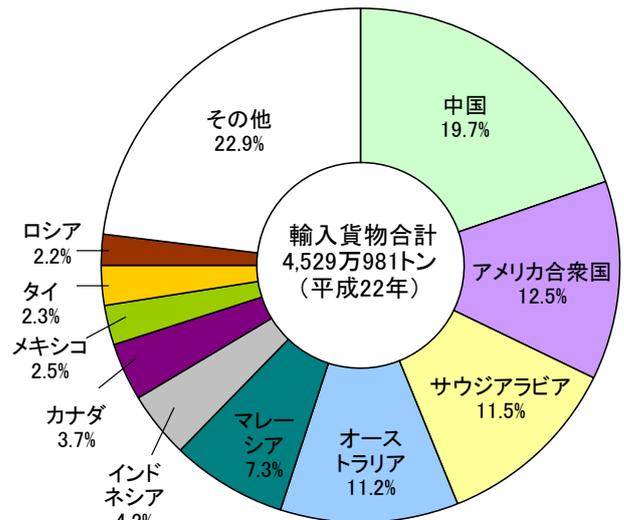


図7 主要国別輸入貨物



(4) 内貿貨物 【P14、15、18】

移出入貨物量を品種別にみると、移出の第1位は「石油製品」で385万トン（16.2%減、構成比21.4%）、第2位は「重油」で348万トン（1.7%減、構成比19.4%）となりました。移入の第1位は「原油」で899万トン（5.6%減、構成比36.7%）、第2位は「完成自動車」で264万トン（65.2%増、構成比10.8%）となりました。移出・移入合計では4,248万トンとなり、前年比で4.9%増となりました。

図8 主要品種別移出貨物

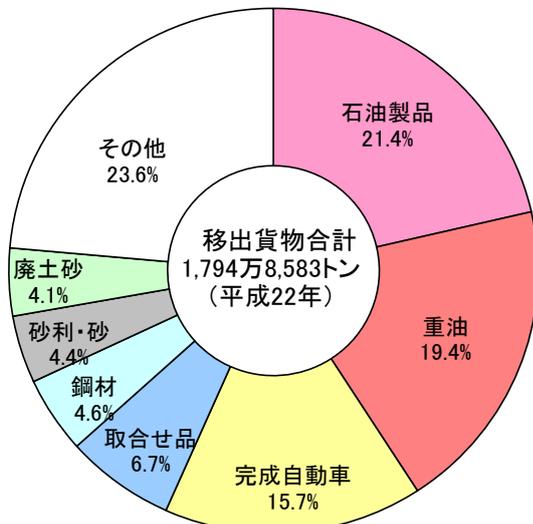


図9 主要港別移出貨物

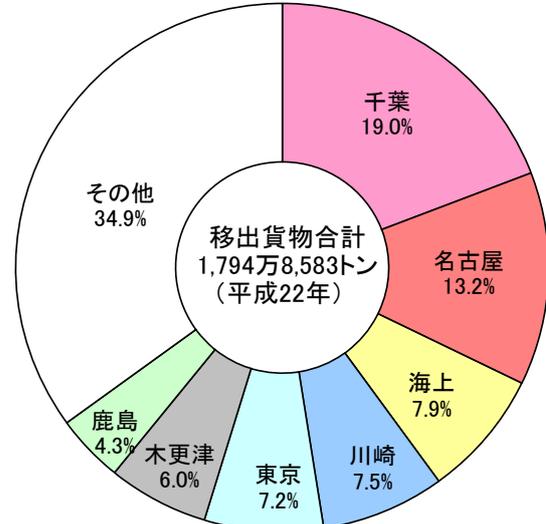


図10 主要品種別移入貨物

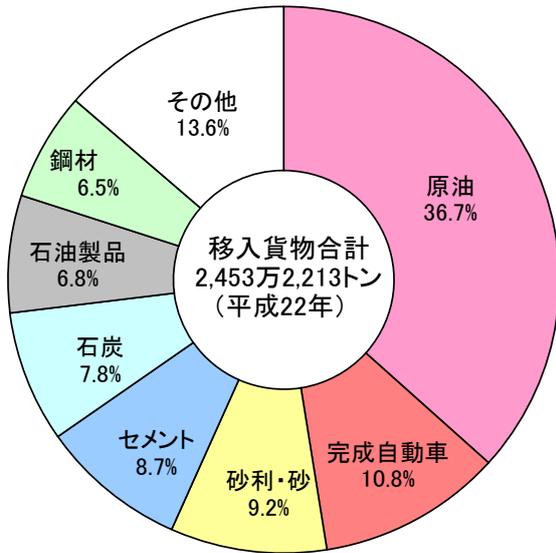
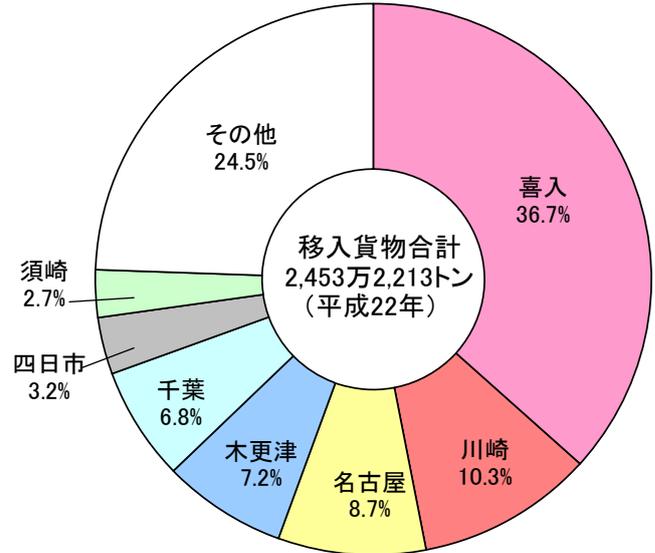


図11 主要港別移入貨物



(5) コンテナ貨物 … 外貿コンテナ貨物量 17.9%増、内貿コンテナ貨物量は過去最高に【P14、15、25】

外貿コンテナ貨物量は、輸出が2,554万トン(21.4%増)、輸入が2,375万トン(14.4%増)、輸出入合計では4,929万トン(17.9%増)と、大幅に回復しました。

一方、外貿貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は、56.5%となり、7年連続で5割を超えています。

図12 外貿貨物量の推移

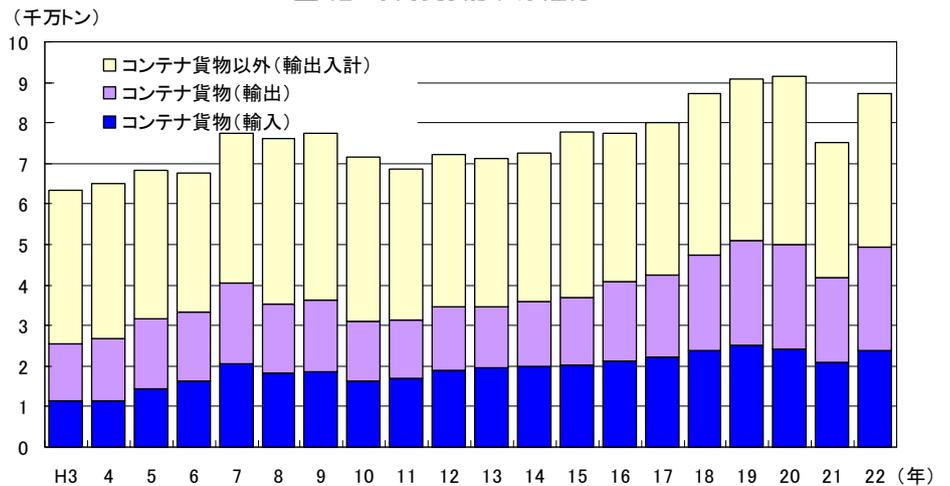
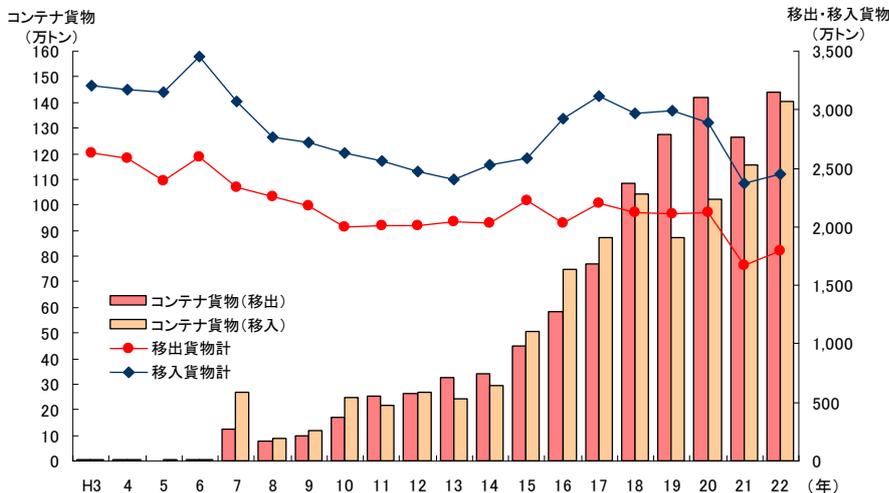


図13 内貿貨物量の推移

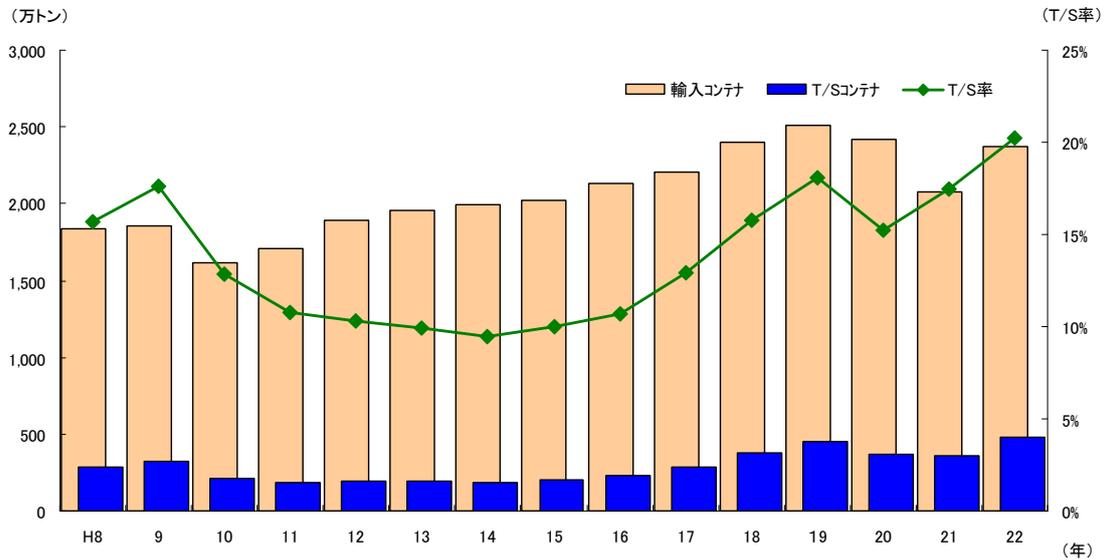


内貿コンテナ貨物量は、移出が144万トン(13.9%増)、移入が140万トン(21.2%増)、移出・移入合計で284万トン(17.4%増)となっており、移出、移入とも、過去最高の貨物量となっています。

(6) トランシップコンテナ貨物 【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は479万トンで、トランシップ率は20.2%となりました。

図14 トランシップコンテナ貨物の推移



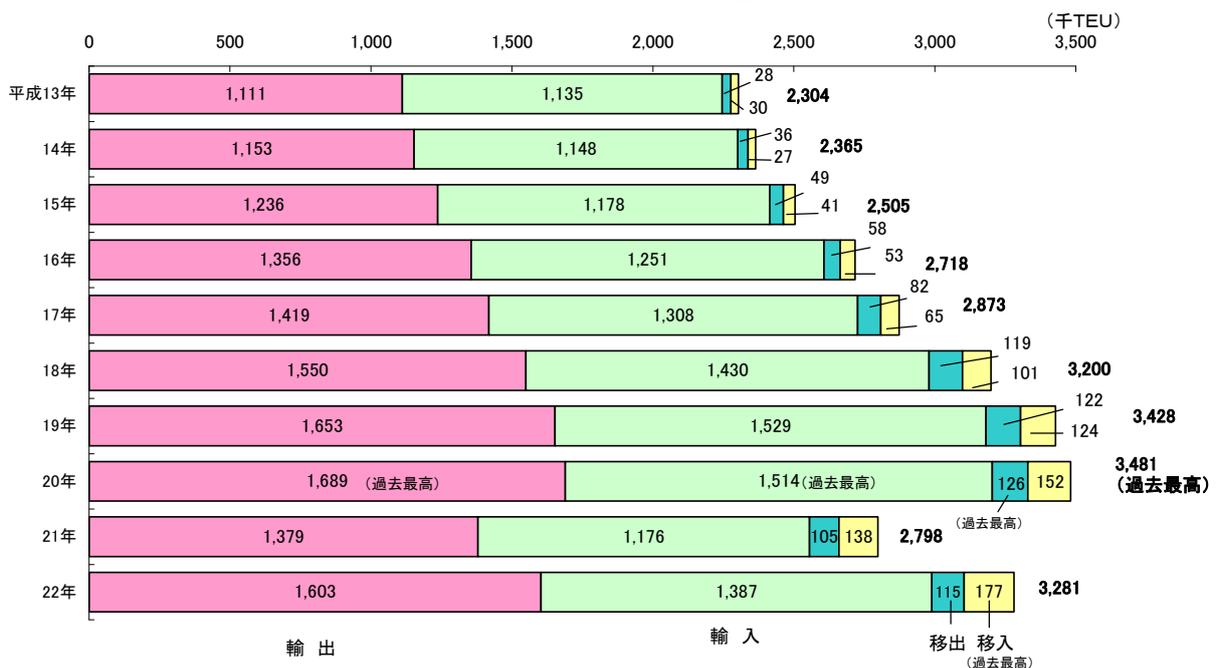
(7) コンテナ個数 … 2年ぶりに増、平成19年に次ぐ過去3番目の取扱個数に 【P20、21、48】

外貿コンテナ個数は、輸出が160万TEU(16.2%増)、輸入は139万TEU(17.9%増)、輸出入合計で299万TEU(17.0%増)となり、平成18年を超える水準まで回復しました。

内貿コンテナ個数は、移出が11万TEU(9.6%増)、移入が18万TEU(28.0%増)、移出・移入合計で29万TEU(20.1%増)となり、移入および移出・移入合計では、過去最高の取扱個数となりました。

外貿・内貿コンテナ個数は328万TEU(17.3%増)となり、過去3番目の取扱個数となっています。

図15 コンテナ個数の推移



横浜港のコンテナ取扱個数（328万TEU）は、東京港（429万TEU）に次いで11年連続で第2位となっています。横浜港のコンテナ取扱個数を前年と比較すると17.3.%増となっています。

図16 主要港別コンテナ個数

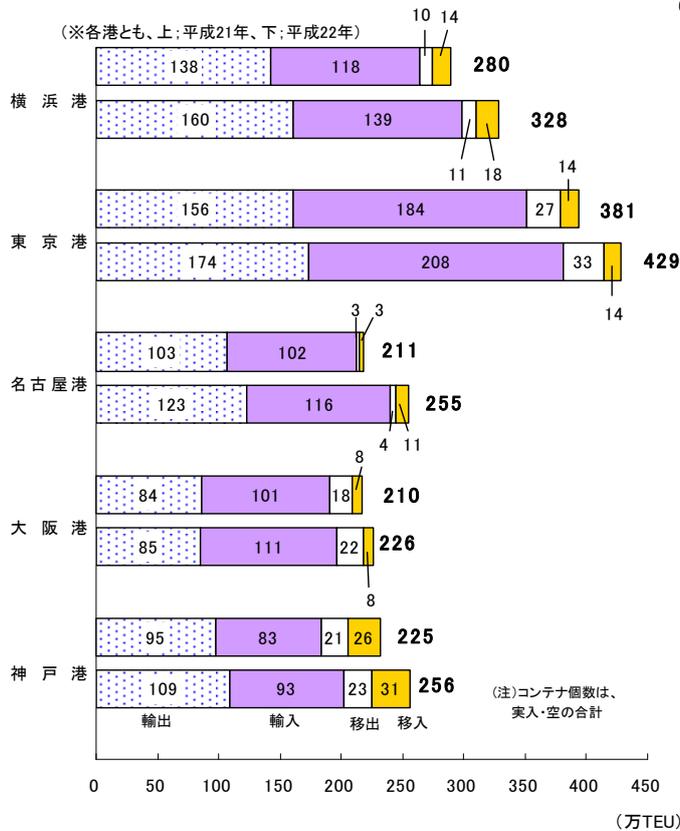
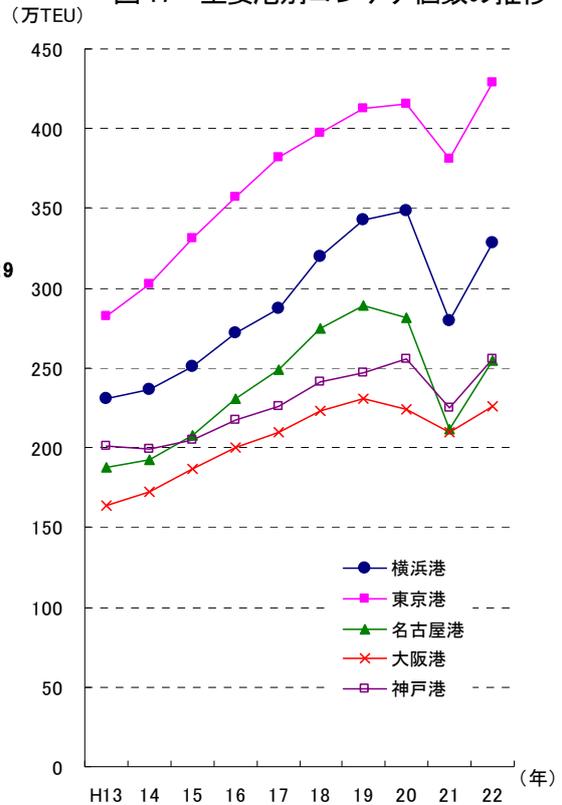


図17 主要港別コンテナ個数の推移



### 3 施設別取扱貨物量 【P28～30】

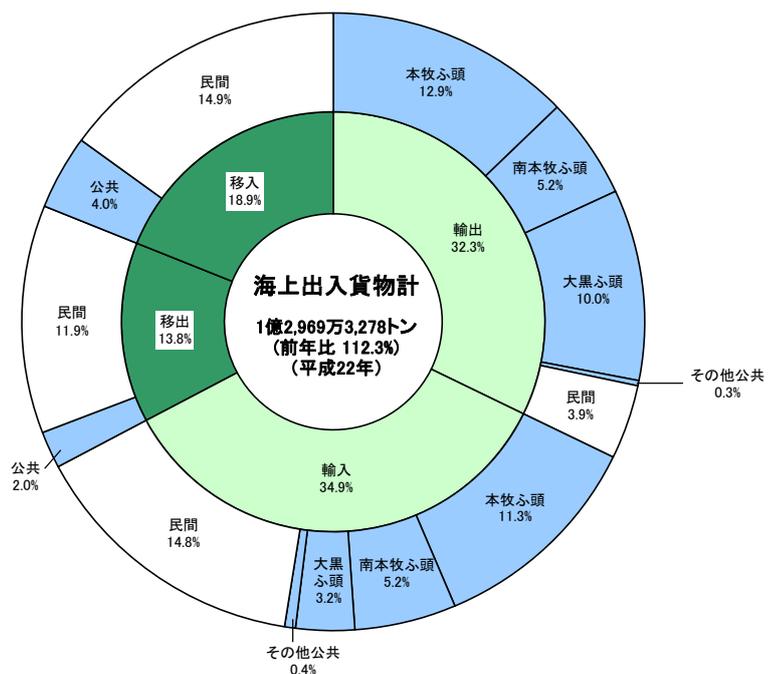
海上出入貨物量に占める公共施設（横浜埠頭公社を含む。以下同じ。）の取扱貨物量は、7,063万トン（20.7%増、構成比54.5%）で、民間施設は5,906万トン（3.6%増、構成比45.5%）となっています。

これを、外貿・内貿別に比較すると、外貿貨物の公共施設での取扱量は、6,291万トン（構成比72.1%）で全体の約7割を占めています。

一方、内貿貨物の民間施設での取扱量は、3,476万トン（構成比81.8%）で全体の8割を超えています。

また、外貿コンテナ貨物の公共施設での取扱量は4,929万トンとなっており、外貿コンテナ貨物のほぼ100%が公共施設で取り扱われています。

図18 施設別取扱貨物



※公共（本牧、南本牧、大黒、その他）は、横浜埠頭公社管理分を含む。